

**CASBEE-広島 (2010年ver.1)**  
 (仮称)東蟹屋ビル

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります  
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE広島 2009年版  
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.3</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>					<b>2.4</b>
<b>1 音環境</b>		<b>1.0</b>	0.15	<b>2.0</b>	1.00			<b>1.9</b>
<b>1.1 騒音</b>		<b>1.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40			
1 暗騒音レベル		1.0	1.00	3.0	1.00			
2 騒音レベル								
<b>1.2 遮音</b>		<b>1.0</b>	0.40	<b>1.6</b>	0.40			
1 開口部遮音性能		1.0	1.00	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能				1.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				1.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				1.0	0.20			
<b>1.3 吸音</b>		<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20			
<b>2 温熱環境</b>		<b>1.0</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00			<b>2.7</b>
<b>2.1 室温制御</b>		<b>1.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	1.00			
1 室温設定								
2 室温変動の抑制								
3 外皮性能		1.0	1.00	3.0	1.00			
4 ゾーン別制御性								
5 室温変動の抑制								
<b>2.2 湿度制御</b>								
<b>2.3 空調方式</b>								
<b>3 光・視環境</b>		<b>1.7</b>	0.25	<b>2.2</b>	1.00			<b>2.1</b>
<b>3.1 屋光利用</b>		<b>1.8</b>	0.30	<b>1.4</b>	0.50			
1 屋光率		1.0	0.60	1.0	0.50			
2 方位別開口								
3 屋光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20			
<b>3.2 グレア対策</b>		<b>1.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.50			
1 グレア抑制								
2 屋光制御		1.0	1.00	3.0	1.00			
<b>3.3 照度</b>		<b>1.0</b>	0.15					
1 照度		1.0	1.00					
2 照度								
<b>3.4 照明制御</b>		<b>3.0</b>	0.25					
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.0</b>	0.25	<b>2.7</b>	1.00			<b>2.7</b>
<b>4.1 発生源対策</b>		<b>3.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	0.63			
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	1.00			
2 化学汚染物質								
<b>4.2 換気</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>2.3</b>	0.38			
1 換気量		3.0	1.00	3.0	0.33			
2 自然換気性能				1.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33			
4 換気設備								
<b>4.3 運用管理</b>								
1 CO <sub>2</sub> の監視								
2 喫煙の制御								
<b>Q2 サービス性能</b>			<b>0.30</b>					<b>2.7</b>
<b>1 機能性</b>		<b>1.0</b>	0.40	<b>2.6</b>	1.00			<b>2.4</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>		<b>1.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	0.60			
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応				3.0	1.00			
3 バリアフリー計画		1.0	1.00					
<b>1.2 心理性・快適性</b>		<b>1.0</b>	0.40	<b>2.0</b>	0.40			
1 広さ感・景観				3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50			
<b>1.3 維持管理</b>								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.4</b>	0.31					<b>2.4</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>		<b>3.0</b>	0.48					
1 耐震性		3.0	0.80					
2 免震・制振性能		3.0	0.20					
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>		<b>1.9</b>	0.33					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		1.0	0.23					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		1.0	0.09					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15					
6 主要設備機器の更新必要間隔		1.0	0.23					

<b>2.4 信頼性</b>			<b>1.8</b>	0.19		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		1.0	0.20		-	
3	電気設備		1.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		1.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	
<b>3 対応性・更新性</b>			<b>2.6</b>	0.29	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>		階高3.0m以上		-	<b>4.2</b>	0.50	
1	階高のゆとり			-	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ			-	3.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>2.6</b>	1.00		-	
1	空調配管の更新性		2.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性		2.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>1.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30		-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>2.0</b>	0.40		-	<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.0</b>	0.30		-	<b>2.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		<b>3.0</b>	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>1.0</b>	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>2.7</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 建物の熱負荷抑制</b>		省エネルギー対策等級3	<b>3.0</b>	0.40		-	<b>3.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>2.5</b>	0.20		-	<b>2.5</b>
2.1	自然エネルギーの直接利用		<b>2.0</b>	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		<b>3.0</b>	0.50		-	
<b>3 設備システムの高効率化</b>		LED等、高効率機器の採用	<b>4.0</b>	0.40		-	<b>4.0</b>
<b>4 効率的運用</b>				-		-	-
4.1	モニタリング			-		-	
4.2	運用管理体制			-		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.5</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>2.2</b>	0.15		-	<b>2.2</b>
1.1	節水		<b>1.0</b>	0.40		-	
1.2	雨水利用・雑排水再利用		<b>3.0</b>	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		<b>3.0</b>	1.00		-	
2	雑排水再利システム導入の有無			-		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.4</b>	0.63		-	<b>2.4</b>
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24		-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.22		-	<b>3.0</b>
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32		-	
3.2	フロン・ハロンの回避		<b>3.0</b>	0.68		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	断熱材		3.0	1.00		-	
3	冷媒		-	-		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.2</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率が少ない	<b>3.2</b>	0.33		-	<b>3.2</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>1.4</b>	0.33		-	<b>1.4</b>
2.1	大気汚染防止		-	-		-	
2.2	温熱環境悪化の改善		<b>1.0</b>	0.67		-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		<b>2.2</b>	0.33		-	
1	雨水排水負荷低減		2.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>2.1</b>	0.33		-	<b>2.1</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
<b>3.2 風害、日照阻害の抑制</b>			<b>1.6</b>	0.40		-	
1	風害の抑制		1.0	0.70		-	
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>1.6</b>	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70		-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	